田の神おもてなし

輪島であえのこと

2015 1205 (土)

川口さん、継承へおい手伝い

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されている奥能登伝統の農耕儀礼「あえのこと」が5日、奥能登各地で行われた。輪島市白米町では県職員の川口喜仙さん(51)が田の神を自宅に迎えてもてなし、今年の収穫に感謝した。

伝統を次世代に継承する思いを込め、おいの谷内清悟君(9)を金沢市から迎え、儀礼を体験させた。寒空の下、川口さんは羽織、はかま姿で谷内君と田に出向き、神が宿るとされるアテの葉を前に「田んぼを今日まで守ってくださり、ありがとうございました」と述べ、米、塩、お神酒をまいて田の神を家に案内した。

風呂でくつろいでもらった後、座敷で「どれも家の者が頑張って作りました。ゆっくりお召し上がりください」と朱塗りの輪島塗御膳に盛ったタイやおはぎ、煮しめなど山海の幸でもてなした。谷内君も興味深げに手伝い、「昔から受け継がれている行事を体験できて良かった」と話した。

あえのことは国の重要無形民俗文化財で、12月に田の神を招き入れ、翌年2月に送り出す。

能登町柳田植物公園の古民家「合鹿庵」では5日、農業中正道さん(64)＝同町上町＝が田の神様に感謝し、古式ゆかしい作法でもてなした。珠洲市では同日午後に日本宗教民俗学会の会員が初めてあえのことの実地調査を行い、同市在住の西山郷史氏が解説する。

田にくわを入れ、おいと一緒に田の神を迎える川口さん＝5日午前10時6分、輪島市白米町